

# 北山整備構想について

令和元年 7 月 25 日  
北山整備構想検討委員会

「大久保地域元気な街づくり推進協議会」（以下「街協」とする）の要請により「北山整備構想検討委員会」を立ち上げた。

平成 31 年 2 月 24 日に第 1 回顔合わせ会を行い、その後 4 回の会合を重ね本案を取りまとめ報告する。

委員会による会合では、想定される北山区域を以下のような 4 つのエリア区分にし、21 名の委員による分科会方式で検討を進めてきた。

## 【4つのエリア区分】

- ①センターハウス・児童原っぱエリア（青少年ホーム・前担堤埋立地）
- ②アトラクションエリア（北山グラウンド・さくら回廊周遊コース）
- ③新堤ビオトープエリア（新堤・白山神社・田園周辺・医療福祉施設）
- ④さくら散道・畜産農エリア（北山さくら・ニッコウキスゲ・畜産団地）

なお、本資料整理作業には、(有)設計アトリエ代表の瀬野和広氏より多大なご協力をいただいた。

また、平成 30 年 12 月に街協が大久保地域全世帯 585 戸及び、ちぐさ認定こども園保護者 24 名、大久保小学校保護者 78 名を対象に実施した「北山公園（仮称）構想づくり等アンケート」の調査結果と当会が実施した現地視察等様々な意見も参考にした。

## ■コンセプト

さくらの下に集う里山公園から地域コミュニティの蘇りへ

## ■北山公園(仮称)整備構想

北山周辺一帯を里山公園として育て、「さくら」を核とし様々な施設を整備することにより全世代が集まる居場所となり、顔を合わせ、会話をし、自然に触れながらコミュニケーションをとるための話題になる公園を目指したい。

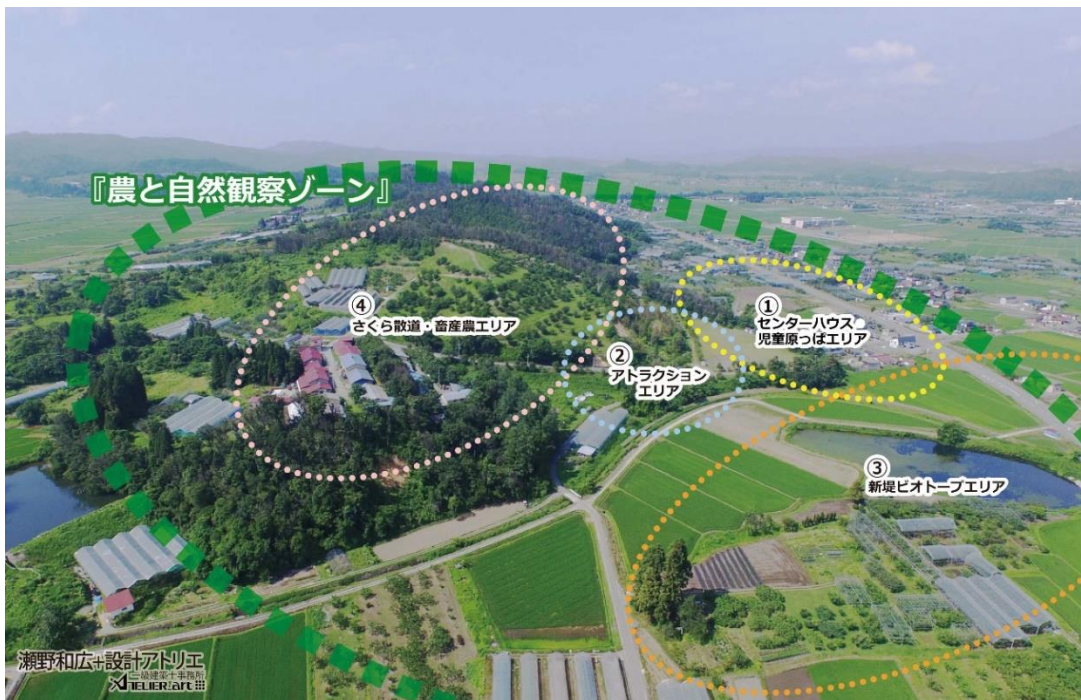
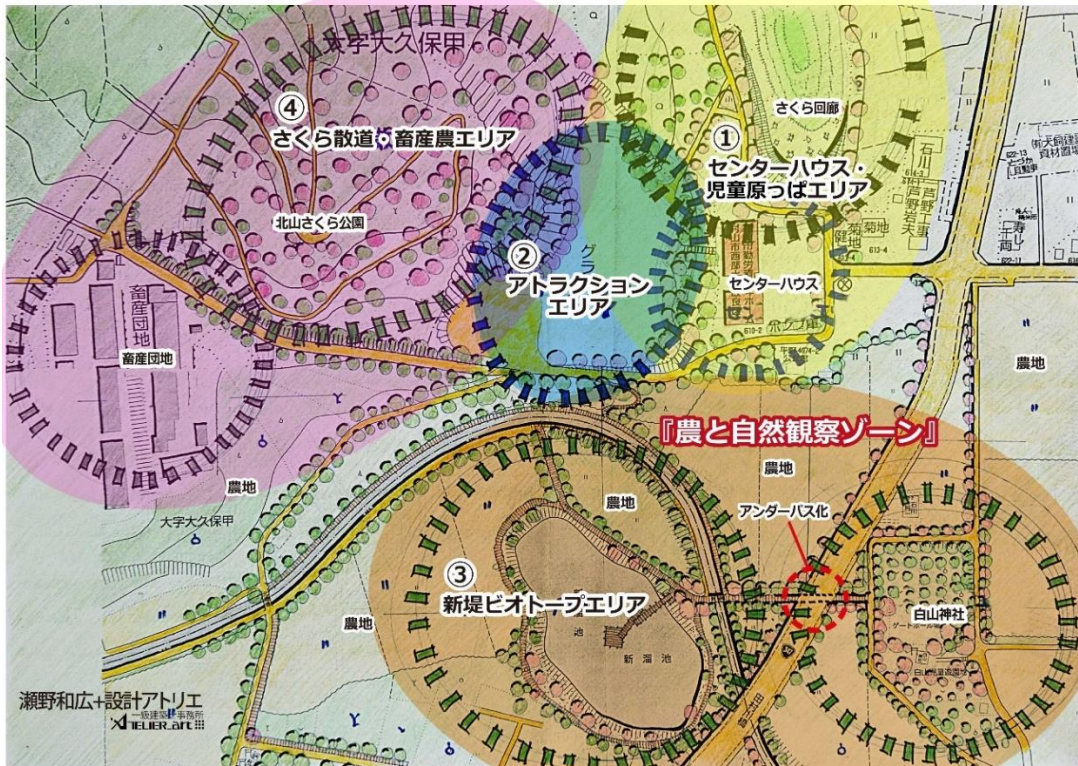
また、立地的にも国道沿いに位置しているため、沿道利用者が立ち寄りたくなる機能の配備工夫により、東の東沢公園とは趣を異にする西の北山公園として近隣地域内外から多くの利用者が期待される。

さらに、今回の整備構想は次世代へ自然を残す最後のチャンスととらえ、これからも地域で北山公園整備の構想を検討し長い目で見る公園づくりが重要と考える。

あるあると思っていた地域の自然とそれと共にあったはずの営みが薄れている。屋外で遊ぶ子どもたちがいなくなったところにも違和感をもたなくなってきたおりこの現状を公園の力で蘇らせる構想としたい。



■ 整備構想全体図



## ■エリアごとの整備構想

### ①センターハウス・児童原っぱエリア(青少年ホーム・前担堤埋立地)

勤労青少年ホームは北山公園計画のゲートの役割を担うため非常に重要であり、四季を通しての利用を考えると屋内コミュニティ活動拠点として欠かせない施設である。



整備構想の始まりはこの前担堤埋立地の公園整備が柱になっているが、掘る・登る・隠れる・作る・探る・集まる・煮る・炊く・入る・走る・投げるなど自然の中で創意工夫しながら遊び方を発見できる環境づくり、人が集まる、集まれる求心力のある施設づくりの工夫（単に既製遊具設備の設置でない建設資材の廃材や財産区間伐材等あるモノ資材の利用など）も必要である。



最上川さくら回廊で植樹したさくらは立派な並木回廊になるはず。その中は広い原っぱに小高い築山。周辺には開放型東屋やテラスをはじめ水回りや



トイレを充実させさくらと共に回る。原っぱ築山には様々なあるモノ資材が挿入され、子どもたちの遊具と化しながら五感を育む仕掛けづくりをする。

## ②アトラクションエリア(北山グラウンド・さくら回廊周遊コース)

旧北山グラウンドこそ、地域の行事会場として重宝されてきた。現在も主にグラウンド・ゴルフ場として活用されているが更に幅のある活用法を公園整備と共に考えたい。センターハウス・さくら回廊周遊コース（児童はらっぱエリア）との連携はもちろん、公園全体の「屋外」的センターハウスの役割を担いたいところ。



## ③新堤ビオトープエリア(新堤・白山神社・田園周辺・医療福祉施設)

新堤には外来種ブラックバス生息が観測されていないようで、次世代の子どもたちのために周辺の農環境の協力を得ながら保護区域とし、農と自然観察のメインエリアとして位置付けたい。



また、かつては北山への玄関口として必ず立ち寄った杜であり、現在でも地域の守り神として存在する白山神社は、国道や農道整備などで通り過ぎられてしまう杜になってしまった。自然観察の立ち寄り処として外せない原風景であり国道を挟んだ新堤ビオトープエリアとの連絡道（アンダーパス化など）の整備も必要である。



周辺には医療福祉施設も充実してきており、エリア内で連携した整備が進められればさらに世代間の交流等が図られる。

#### ④さくら散道・農畜産エリア(北山さくら・ニッコウキスゲ・畜産団地)

北山さくら公園での600世帯600本のさくら植樹は見事な地域の資源になった。

また、ニッコウキスゲはさくらが散った後に山頂部を黄色に染め、散道沿いに植えた水仙と共に花咲く山として重要な役割を担っている。



この散道エリアの整備・保全是正に地域コミュニティの証であり宝物である。

このエネルギーで北山周辺にまで散道を延ばしそこを動線に自然観察エリアとして位置付けながら、開発ではないあくまで保全のための整備を企てたい。



さらに、畜産団地は農的環境観察エリアとしては貴重な畜農施設であり、民間所有畑地も含めて環境教育の受け皿になってもらい生態系優先のモデル農地として取組みたいところ。